

令和7年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 横代 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、3年生を対象として、令和7年4月17日（木）に、「教科（国語、数学に関する調査）」、文部科学省が指定した日（4月14日から4月17日の間）に「教科（理科に関する調査）」、「生徒質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、数学、理科）

教科に関する調査（国語、数学、理科）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問調査

生徒質問調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査（国語、数学、理科）の結果

| 本年度の結果 | 国語 | | 数学 | | 理科 |
|--------|-------|-------|-------|-------|----------|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均IRTスコア |
| 本市 | 7.4 | 53 | 6.7 | 45 | 492 |
| 全国 | 7.6 | 54 | 7.2 | 48 | 503 |

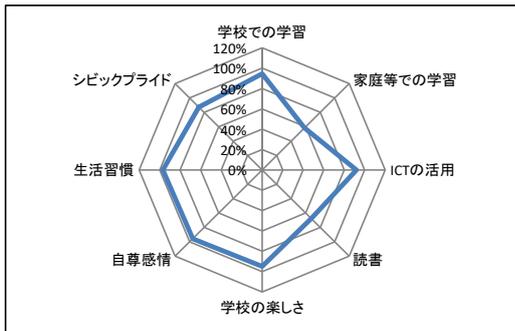
(2) 本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|----|-------------|---|-----------------------|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 平均正答率は全国の平均正答率と比較して下回っていたが、学習指導要領の「読むこと」で「思考・判断・表現」を問う正答率が全国、福岡県の平均を上回っていた。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 文章全体と部分の関係に注意しながら、登場人物の設定の仕方を捉えることができるかどうかをみる問題や、表現の効果について、根拠を明確にして考えるかどうかを見る問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 読み手の立場に立ち、語句の用法、叙述の仕方などを確かめ、文章を整えることができるかを見たり、書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文書の構成や展開を考えたりできるかをみる問題に努力が必要 | |

| | | | |
|----|-------------|--|-----------------------|
| 数学 | 全体的な傾向や特徴など | 平均正答率は全国の平均正答率と比較してすべてにおいて下回っていたが、「データの活用」と「図形」については比較的正答率が高い結果となっている。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 必ず起こる事柄の確立について理解しているかどうかをみる問題や多角形の外角の意味を理解しているかどうかを見る問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題や相対度数の意味を理解しているかどうかをみる問題に努力が必要 | |

| | | | |
|----|-------------|---|-----------------------|
| 理科 | 全体的な傾向や特徴など | 平均正答率は全国の平均正答率と比較してすべてにおいて下回っていたが、エネルギーを柱とする領域で比較的正答率が高い結果となっている。 | 全国平均正答率との比較 下回っている |
| | よくできた問題 | 電熱線で水を温める学習場面において、回路の電流・電圧と抵抗や熱量に関する知識及び技能が身に付いているかどうかをみる問題 | |
| | 努力が必要な問題 | 電気回路に抵抗がついている理由を問うことで抵抗に関する知識が身に付いているかどうかをみる問題や探求を通してまとめたものを他者が発表する場面において、探求から生じた疑問や生活との関連などに着目した振り返りを表現できるかの問題に努力が必要 | |

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



全国平均を100としたときの本校の割合

| 質問調査の結果分析 |
|---|
| <p>レーダーチャート96.9%で一番値が高い【生活習慣】を問うQ1「朝食を毎日食べていますか」では、本校は、65.8%で全国は78.7% Q2「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」では、本校は、28.9%で全国は34% Q3「毎日同じくらいの時刻に起きていますか」では、本校は、64.5%で全国は54.7%の値を示している。</p> <p>次に、58.3%と一番値が低い【家庭での学習（学習習慣）】を問うQ17「学校の授業以外に、普段（月～金）1日当たりどのくらいの時間勉強しますか」では、「1時間より少ない生徒」が本校は、60.5%で、全国は38.1% Q19「土曜日や日曜日など学校が休みの日に1日当たりどのくらいの時間、勉強しますか」では、「1時間より少ない生徒」が本校は、68.5%で全国は39.5%を示している。このことから授業と家庭学習を効果的につなぐ課題の工夫が必要である。</p> <p>最後に国数理の領域への質問項目を除き、肯定的な意見が全国平均を上回るものとして Q8「人が困っているときは、進んで助けていますか」 Q9「はじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」 Q14「友達関係に満足していますか」 Q23「新聞を読んでいますか」 Q26「地域の大人に、授業や放課後など勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがありますか」 Q29-2「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集することができると思いますか」 Q37「授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができますか」 Q38「先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると思いますか」などが示された。</p> |

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・基礎学力の定着を図るため、朝自習では基礎・基本的な内容を中心に取り組むことを継続して行う。
- ・朝自習コンクール、考査前の放課後教室、ひまわり教室を活用し、授業内容の理解や目的に応じて学習支援を行う。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・昨年度と同様に家庭学習の習慣化を図るため、各教科による宿題や自学ノートの工夫をより一層進め、効果的な学習の在り方を提案する。